学校研究

（１） 研究主題

令和７年度

主体的に学び合い、考えを深める子どもの育成
～算数科の「とも学び」を通して～～

飯豊町立添川小学校

（２） 主題について

本校では、これまで「主体的に学び合い、考えを深める子どもの育成」をめざして研究を進めてきた。子ども達同士で学びを深め合う「とも学び」や、子ども達自身が授業の流れ（課題作り・見通し・ひとり学び・とも学び・まとめ・振り返り）を見通して主体的に学習するスタイルについて継続的に取り組んできた。昨年度から、研究主題を現在のものに改め、どのような子どもの姿を目指すのかを具体化し、一人ひとりが友達とのかかわりの中で教え合い、深め合い、認め合う協働的な学び合いを目指し研究を進めた。これにより、子ども同士の学び合いをどう持たせるか、学び合いを深めるためにどのような課題を設定するかなど、「とも学び」についての知見を深めることができた。また、教科を算数に焦点化し、適切な「振り返り」の持ち方を工夫したり「とも学び」を行うねらいを明確にしたりするなどの共通実践を設けることで、より研究を深めることができた。

これらをふまえ、今年度は昨年度と同じ方向性で、内容を発展させたいと考えた。子ども達につけたい資質・能力としては「聞く・話す力（課題解決に向かって考えを伝え合い話し合う言語活動）」を今年度も継続する。子ども達同士の多様な意見を子ども達自身が受け止め、それを元にした豊かな学び合いを実現させたい。また、これまでの共通実践を元に、「振り返り」の観点・持ち方を単元・時数に合わせて工夫し、研究を積み重ねたい。なお、学習リーダーについては、全ての学年の算数科が単式授業となった事から、学習リーダーが有用である場合にしぼって活用する形とする。活用する際は、そのねらいや活用の仕方、学習リーダーに任せるところと教師の出番の吟味を引き続き行い、子ども達の主体的な学び合いに資するようにしていきたい。

（３）研究のねらい

＜めざす子ども像＞

① 自分の考えを持ち自ら学ぼうとする子ども
② 友達との話し合いを通して考えを深め合おうとする子ども

① について

・見通しを持って課題に取り組み、自分なりの考えを持つ。
・課題に対する学び方が分かり、進んで自分の考えを表現する。

② について

・友達の考えを、視線を向けて適切に反応しながら最後まで聞く。
・相手に伝わるように、適切な言葉を選んだり説明する方法を考えたりしながらわかりやすく伝えようとする。
・友達と考えを伝え合い、認め合う。
・自分の考えを修正したり、質問し合ったりしてよりよい学びにする。

（４）研究の視点

＜視点１＞　考えを持たせるための手立て

〇子どもが「知りたい！」と思い、わくわく学ぶ課題の設定（問題提示の工夫など）

〇「気づき」から既習事項を想起し、考える手がかりを見つけ、全員で見通しを共有する場の設定（気づき・見通し・課題を見つけ出す力）

〇学習の流れがわかる板書・ノート作り

（既習が見えて次の課題へ繋がるノート、校内で書き方を統一する部分の研究）

〇ＩＣＴ機器や思考ツール、単元等の特性に応じた教材・教具の活用

＜視点２＞　主体的に学び合うための手立て

〇自分の考えを持つための時間の確保（ひとり学び）

〇話し合う話題を明確にし、自分事として考えたくなる場の設定（意図的ペア、グループなど）

〇お互いの考えを聴き合い、相手の考えを認め自分の考えに生かす学び合い

（共通点・相違点に気づく・教え合ったり、認め合ったりする・きまりを見つける・キーワードでまとめる・考えを繋ぎ合うなど）

〇発達段階や学習の内容に合った「振り返り」の視点の設定。

◇必要に応じた学習リーダーの活用

（５）　研究の方法・計画

【本校でのとらえ方】

◇**「とも学び」**　：共通の課題にむかって友達同士で話し合いながら解決していく中で、**友**達と**とも**に考えを深め高め合っていく学び、自分たちの力で解決の糸口を見つけようとする学び。

◇**「ひとり学び」**：自分の力で自分なりに考えようとする学び。

◇ **考えを深める**　：はじめに持った考えを、関わりを通して修正・再構築したり、気づいたことを、根拠を明確にして説明したりすること。(その子にとって深まった状態・解決できた状態)

更に、考えのよい点や問題点に気づきながら、様々な解決方法を知り、考えを広げていくこと。

①　研究の内容

〇　事前研究：指導案をもとに提案し、全員で本時と研究主題に関わる部分を話し合う。児童の実態からどのように授業を仕組んだかを確かめ、単元を通した中で、単元ごとのつけたい力を明確にする。

〇　授業参観：観察児童を中心に教師やその児童と関わった児童の発言を記録し、視点に沿って意見を付箋にまとめる。

〇　事後研究：視点に沿って、ワークショップ形式で話し合いを深める。成果と課題を明確にし、共通実践できる有効なポイントや次の一手をまとめる。児童の姿からどんな学び合いができるかを重点的に取り上げて話し合う。

〇　実践記録：研究主任がポイントや次の一手をまとめて発行し、今後の授業に生かす。

②　研究の進め方

〇　授業研究の後、授業のポイントや次の一手を「実践記録」にまとめて発行する。全職員で共有し、日常の授業に生かす。

○　年度末に研究集録として研究をまとめ、次年度に生かす。
○　校外での研修会に参加したり外部講師から指導を受けたりして研修を深める。
○　教育委員会の竹田俊章先生より、授業を指導していただき、授業改善を行う。

③　研究組織

校長　　教頭

研究推進委員会（校長・教頭・教務・研究主任）

学　校　研　究　全　体　会

◎研究主任

（低）略　　（高）略

④　研究計画

※事前研究はまず全体で行い、その後、必要に応じて部会ごとに行う。
同じ日の授業研究は、低＋高の組み合わせで行う。
２年生・３年生の授業研究は行わない。ふれあい級は、おりを見て指導案を作成・配付し、少人数での参観を行う。

○・・・　教育事務所と飯豊町教育員会より参観

月	日	曜日	研究計画	授業研究（教科・学年を明記）	指導主事派遣要請
4	16	水	学校研究全体会	研究主題・視点についての共通理解 指導案形式の検討	
5	28	水	事前研究①		
6	18 25	水 水	授業研究① 事前研究②	授業研究　4　年　（　算数　）	
7	16	水	授業研究②	授業研究　5　年　（　算数　）	
8	25	月	事前研究③		
9					
10	15	水	授業研究③	授業研究　1　年　（　算数　） 6　年　（　算数　）	○
11					
12	3	水	今年度のまとめについて		
1	21	水	学校研究全体会	まとめと来年度の方向性	
2					
3					